

研究の名称

超強化型老人保健施設における生活機能アセスメントを用いた自宅退所因子の検討

1. 研究の対象

令和6年3月から令和8年3月の間に当施設でリハビリテーションを実施し自宅もしくは施設退所となった約300名のうち、入院退所及び死亡退所となった者、4-4に示す評価が困難もしくは欠損したものを除外した。また他施設から入所した者に関しても退所先の解析項目に該当しないため対象外とする。

2. 研究目的・方法

2-1. 研究目的

介護老人保健施設(以下、老健)は利用者の尊厳を守り、安全に配慮しながら、生活機能の維持・向上をめざし総合的に援助し、家族や地域の人々と協力し安心して自立した在宅生活が続けられるよう支援する施設である¹⁾。特に超強化型老健においては、個々の入所者の動作能力を最大限に引き出し在宅復帰率を維持することが求められる。老健ではかねてより基本情報かつアセスメントに用いるツールがあり、R4システムと呼称されている。これは公共社団法人介護老人保健施設協会が老健でケアのあり方や利用者の評価、モニタリングの仕方はいかにあるべきかを定義し、評価指標としたものである²⁾。これらは全国の介護老人保健施設で広く普及しており、中でも生活機能アセスメント(ICF Staging 以下 ICF)は簡潔かつ明瞭に利用者の状態像を多職種間で「日常生活内でしている動作(以下 ADL)」と「特定の環境下であればできる ADL」として14項目の生活動作に対して5段階評価を行うことが可能なツールとして使用されている。5段階はそれぞれ細かく自立度が明文化されており、また段階毎にイラストがつくことで多職種でも共有しやすいものとなっている。加えて実際の様子を文章で記載することも可能なため特記事項の把握や普段の様子を理解/想像しやすいところも特徴である。実際の現場では「している ADL」の中では特に「移乗能力」「排泄管理」「認知機能」の3点に着目し、自宅生活の難易度に直結する要素として実際に退所先を判断する項目となることも多い。

既存の研究の多くは医療機関における Functional Independence Measure (以下、FIM) や「Barthel Index(以下、BI)をはじめとした ADL 評価を用いての転機先報告であり、老健で広く使用されている R4 ないし ICF を用いた報告は限られている。

移動および移乗は日常生活動作の基礎であり、その自立は介護負担が極めて大きくかつ基本的な日常生活動作である排泄や入浴の問題解決につながると土井らは述べていた³⁾。また、横井らは特に認知症の重症度が中等症以降の場合「食事」以外のセルフケア及び排泄コントロールを中心に難易度が顕著に高くなると示唆している⁴⁾。先の報告のように在宅復帰に関連の深い ICF 項目を明らかにすることが出来れば老健においても在宅復帰をさらに推し進めることができると考える。

本研究の目的は当施設における入退所者データを後方視的に解析し、基本情報含む ICF 全項目を多角的に検証したうえで特に退所先との関係性のある因子を明らかにすることとした。

1) 公共社団法人全国老人保健施設協会(2018)「介護老人保健施設の理念と役割」

https://www.roken.or.jp/about_roken/rinen (2026年3月20日)

2) 公共社団法人全国老人保健施設協会(2018)「全老健版ケアマネジメント方式 R4 システム -R4 システムについて https://www.roken.or.jp/about_roken/r4 (2026年3月20日)

3) 土肥 健純 (1999)「移動・移乗支援システム」『厚生労働科学研究成果データベース』199900176A, 1-4

4) 横井 輝夫(2003)「痴呆性高齢者の認知機能障害と ADL 障害との関連」『理学療法化学』18-4, 225-228

2-2. 研究方法

◇研究のデザイン

当施設を退所した入所者 300 名前後を対象とし、基本情報、ICF Staging (以下 ICF) の項目を電子カルテから抽出し後方視的に調査を行う。

◇統計解析の方法

自宅から、もしくは自宅から入院を挟んで当施設に入所した者のうち、自宅に復帰した「自宅退所群」と自宅以外の施設に入所となった「施設入所群」の 2 群間を目的変数とする。これら 2 群間の退所時 ICF の各項目を Mann-Whitney U test を用いて比較し、有意差のある項目を抽出する。また説明変数として年齢、性別、要介護度、長谷川式認知症スケール (以下、HDS-R) の群間比較も行い、2 群間で有意差を認めた項目と二項ロジスティック回帰分析を行う。

◇研究期間

研究開始時期 承認日

研究終了時期 承認日より 6 ヶ月

3. 研究に用いる試料・情報の種類

自らの研究期間において保有している既存試料・情報を用いて研究を実施する。対象者に新たに評価は行いません。

①基本情報 (年齢、性別、要介護度、認知機能 (HDS-R)、退所先)

* 当施設を退所したもののうち、入院退所及び死亡退所となった者、評価項目に欠落のある者を除外した。また老健に入所するにあたり、自宅もしくは入院を経ての入所ではなく他施設から直接入所した者に関しては退所先の解析項目に該当しないため対象外とする。

②ICF Staging

・退所持 ICF ※それぞれの項目ごとに得点を評価

* 全ての評価項目は入所中に記録された結果を後方視的に電子カルテから抽出することとする。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて入所者及び入所者の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも入所者に不利益が生じることはありません。

医療法人社団主体会 介護老人保健施設

みえの郷 作業療法士 深谷美雛

〒512-1111

三重県四日市市山田町 5538-1

Tel : (059) 328-2116

Fax : (059) 328-1868

研究責任者 : 深谷美雛